

宿泊形農園レストランの経営で 自立型農業を目指す

農業生産法人 有限会社 カナンおきなわ



代表

依田啓示



店舗は海まで徒歩1分の好立地。太平洋の海風が感じられる絶好のロケーション。

【問い合わせ先】 農業生産法人 有限会社 カナンおきなわ

住 所	〒905-1204 国頭郡東村平良863-2		
TEL&FAX	0980-43-2468	携 帯	090-9787-4515
U R L	http://slow-farm.jpn.org/home.html		

農業の魅力を発信する拠点

東村在の有限会社カナンおきなわは、野菜や果物、アグー豚の生産・販売などを軸にしながら、商品開発や農園見学も手掛けている。代表の依田啓示氏は、ハワイの大手卸会社で青果の流通に携わった経歴を持ち、その時にハワイの農業に触れたことがきっかけで農業に魅力を感じ、2003年から本格的に農業に取り組み始めている。いざ農業経営をしてみると、天候と相場に左右されるなど不安定な面もあり、あらためて農業経営の難しさを痛感したという。

農家自身が農業の魅力を発信していく必要があると考えた依田氏は農園を訪れるお客さまや地元農家、関係者が交流できる空間を作りたいと、宿泊型農園レストラン『カナンスローファーム～カフェ & エコステイ～』を2011年にオープンさせている。

農業の新たなビジネスモデルを構築

『カナンスローファーム』は自然に還るというコンセプトのもと、テレビのない8部屋の宿泊施設と、自社産の無農薬野菜や、村内の農家が作った規格外野菜を味わうことができるカフェを併設している。農業体験やエコトレッキング、飼育するアグー豚140頭、牛6頭と触れ合えるなどさまざまな魅力を提供する場となっている。「友人

の家に遊びに行くような感覚で気軽に訪れて、ゆったりとした時間を過ごしてほしい」。オープンから2年だが、すでに家族連れや女性客を中心にファンを獲得しており、農業だけではなく沖縄観光の新しいビジネスモデルとしても注目が集まる。

カナンおきなわには、6次産業へ挑戦するきっかけとなった商品がある。独自ブランドの「塩パイン」だ。「以前諸事情でパイン畑を半年間放置した際、台風の塩風をかぶってしまいその畑のパインが販売できなくなったことがあり、その時に



トマトに紅芋、かぼちゃやアグー肉など、ヘルシーでボリューム満点のメニューが嬉しい。

売れなくなったパインを食べてみると驚いたことに甘みが増していたという。「これまで食べたことのない甘さに驚きました。まさか主力商品になるなんて」と語る依田氏。こうして偶然誕生した「塩パイン」だが、そのあと濃度を微調整した海水を与え追熟させ収穫す

るという独自の栽培方法を確立し、人気商品へと成長させている。また、株式会社 Zen エンタープライズと共同開発した『塩パインアイスクリーム』の販売にも乗り出し、濃厚なチーズのような味わいが好評を得ている。

北部の新しい魅力

「東村だからこそできる農業の魅力を、地域と連携しながら発信していきたい」と語る依田氏。やんばる一押しスポットになること間違いなしの